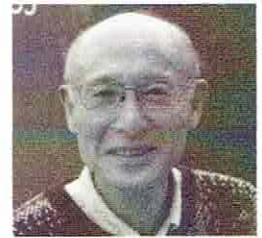


農と食のコラム

楽しみな地方版CDとの出会い

—農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄一—



蔦谷 栄一（つたや えいいち）

（主な経歴）

東北大学経済学部卒業、1971年農林中央金庫入行、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年7月農林中金総合研究所基礎研究部長、常務取締役、特別理事などを経て、現在、農的社会デザイン研究所代表

（主な著書）

「地域からの農業再興」「共生と提携のコミュニティ農業へ」（以上創森社）
「日本農業のグランドデザイン」（農山漁村文化協会）など

個人的な旅行や講演等で地方に足を運ぶ時の一番の楽しみは何と言っても人との出会いにある。そしてこれに次ぐ楽しみの一つが地方オリジナルのCDやDVDの購入である。博物館や道の駅等で面白そうなCD等が並んでいれば、懐具合に支障がない限り、たいていのものは購入することになっている。ご当地ならではのもう一つの出会いといえる。最近購入した中で出色なのが、CDの曲名ベースでは、隠岐の島での「浄土ヶ浦小唄」「風を感じて」、DVDでは隠岐の島での「隠岐古典相撲」、徳島県神山町での「産土（うぶすな）」、青森の「寒撥～高橋竹山・魂の響き～」、「津軽弁の日in東京」などがある。まさに一期一会の貴重な宝となっている。

状況は逆に東京で出会ったケースだが、先日、某演劇スタジオで、音楽グループ『N.A.S.U.』のプロデューサーとそのメンバーとお会いし、彼らのCD「The Beginning…母なる大地と共に」を購入した。これはこれまで遭遇した民族音楽とも現代音楽とも異なる、未来的かつ懐かしさをも感じさせる素晴らしい

音楽世界を展開している。N.A.S.U.は、那須に住む5人のアーティストによって構成されたグループで、NはNature自然、AはArt芸術、SはSound音楽、UはUniverse宇宙であり、その思いをグループ名に凝縮する。それぞれがオリジナル楽曲を持ち寄って、観光客向けの「ご当地CD」を作成・販売する予定だったという。ところがレコーディングの進行中に、3・11（東日本大震災）、原発事故が発生したことから、「ご当地CD」とすることは取りやめ、コンセプトを練り直して、「新しい世界に向けての第一歩」として位置づけ直し発売することにしたという。

「Listen to the Forest Ah Ah
耳をすまし 目を閉じて
聴こえるでしょ 森の声
あなたはまだ 生まれただけ
…
欲張らないで あやつらないで
奪うのではなく 受け取って」

これはアルバムの中の1曲 Listen to the Forestの一節である。そしてこの曲には、次のようなメッセージが添えられている。「生命

40億年の歴史の中では、人間は新参者。畏敬の念を抱き、その戸羽口にたたずんでいる人間に、母なる森は、ひそやかな、そして手厳しくもあるメッセージを送ってよこす。それは行き過ぎた文明をあるべき姿に戻し、自然との共生を促す。まさに黙して敬すべきメッセージであり、「金目」がすべてのアベノミクスとは正反対の国難を乗り切る励ましを音楽世界で発信している。

たかが地方オリジナルCDというなかれ。音楽と詩は自然に対する人間の姿勢を問いただし、規模拡大・生産性偏重ではなく、多面的機能を重視した第1次産業の重要性をも示唆する。地方版ゆえにこそ先行して新たな世界の創造に挑む魂と触れ合うことができる。

＜表紙・目次へもどる＞